

実画面で学ぶ実践記録

ブログ自動化・第2次実践ガイド

完成版 | 2026年10月1日 | A4教材PDF

Google SheetsからWordPress下書きへ。 自動で届け、人間が確かめて公開する。

今回の到達点

入力データをMake経由でWordPressの下書きへ届けるテストを実施。成功の記録と、重複下書きという課題の両方を学びます。

本書は、ブログ自動化の「完成報告」ではなく、途中の結果発表です。文書としての完成版であり、運用全体の完成や無人公開を意味しません。

このガイドで学ぶこと

- 01 全体工程と停止地点 02 Google Sheetsの入力項目
- 03 Makeの6モジュール 04 成功・エラー履歴
- 05 WordPress下書き 06 重複と再実行の教訓
- 07 自動化の境界 08 公開前チェック・第三弾へ

資料の扱い：提供された5枚の実画面を掲載。画面から見えない設定値、エラー原因、各実行と投稿の対応関係は断定しません。モジュールの一般的な役割と、推奨する確認手順は区別して説明します。

01 / 全体工程

下書きで自動処理を止める

以下は初心者向けの運用方針図です。実装された停止モジュールを示す図ではありません。

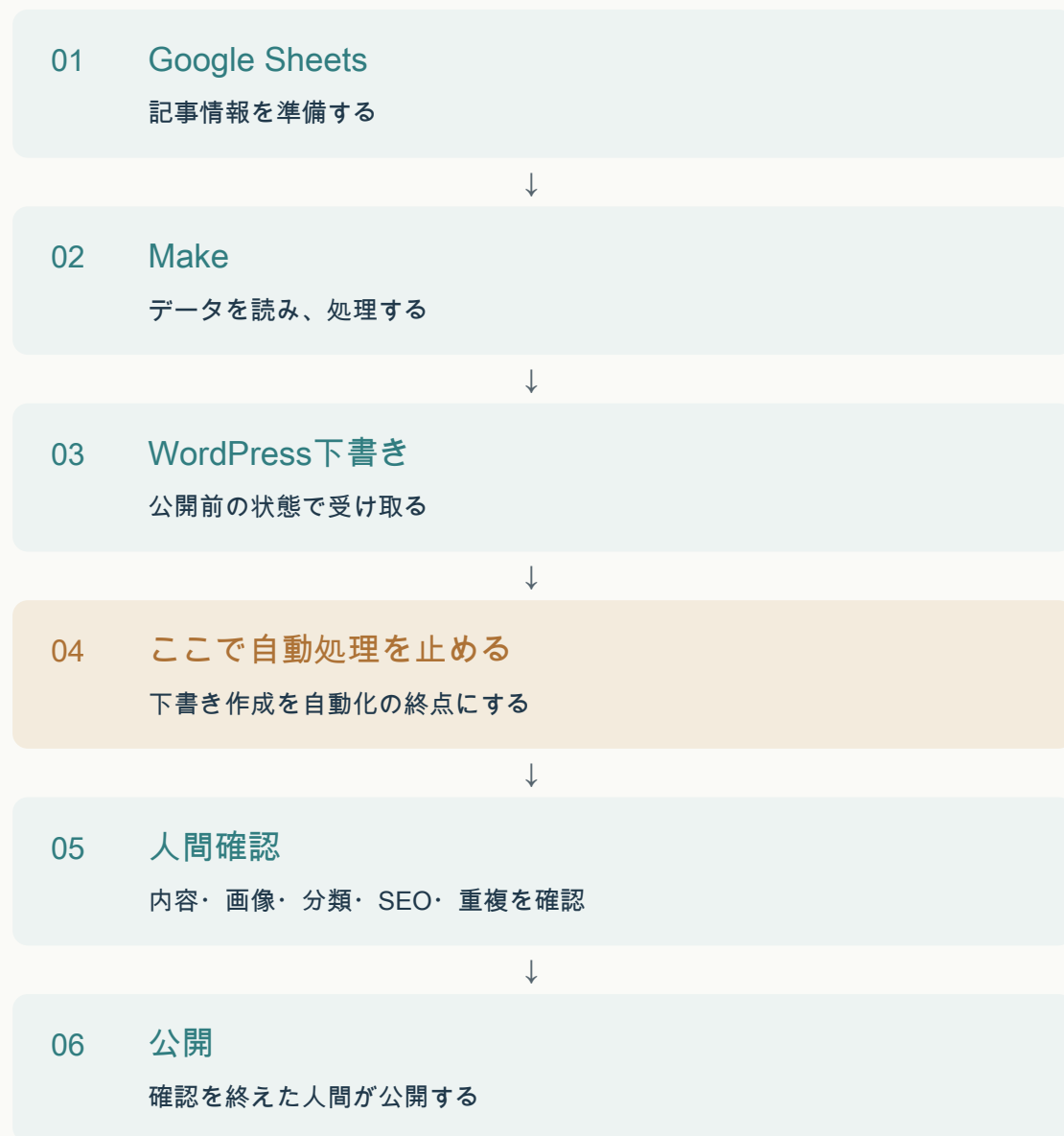


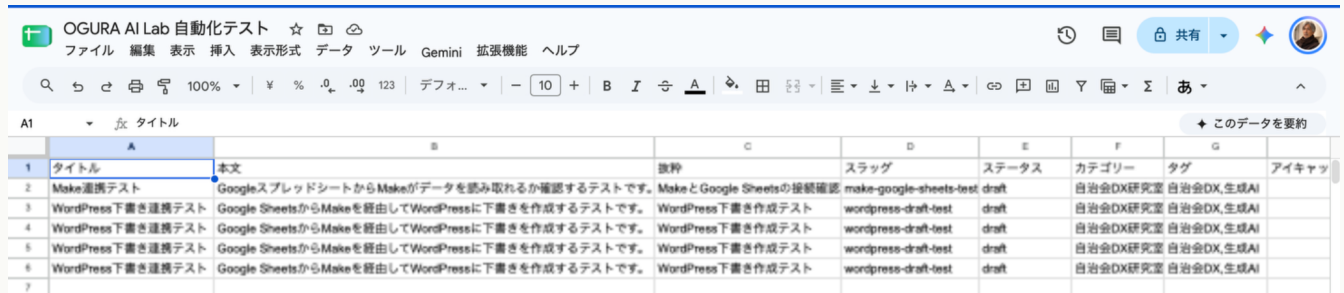
図1 全体の簡略工程図。公開までを一続きの自動処理にせず、下書きの後に人間の判断を置く運用方針です。

「止める」の意味

自動公開へ進めないという境界です。停止の仕組みや設定方法は、提供画面だけでは確認できません。

Google Sheetsに記事情報を用意する

列は、WordPressへ渡す情報の整理箱です。1行のテストデータを見ながら役割を理解します。



A1	タイトル	本文	スラッグ	ステータス	カテゴリー	タグ	アイキャッチ
1	タイトル	本文	スラッグ	ステータス	カテゴリー	タグ	アイキャッチ
2	Make連携テスト	GoogleスプレッドシートからMakeがデータを読み取れるか確認するテストです。MakeとGoogle Sheetsの接続確認	make-google-sheets-test	draft	自治会DX研究室	自治会DX,生成AI	
3	WordPress下書き連携テスト	Google SheetsからMakeを経由してWordPressに下書きを作成するテストです。	wordpress-draft-test	draft	自治会DX研究室	自治会DX,生成AI	
4	WordPress下書き連携テスト	Google SheetsからMakeを経由してWordPressに下書きを作成するテストです。	wordpress-draft-test	draft	自治会DX研究室	自治会DX,生成AI	
5	WordPress下書き連携テスト	Google SheetsからMakeを経由してWordPressに下書きを作成するテストです。	wordpress-draft-test	draft	自治会DX研究室	自治会DX,生成AI	
6	WordPress下書き連携テスト	Google SheetsからMakeを経由してWordPressに下書きを作成するテストです。	wordpress-draft-test	draft	自治会DX研究室	自治会DX,生成AI	
7							

図2「OGURA AI Lab 自動化テスト」の実画面（入力部分を抜粋）。draftの値と同じテスト名の複数行が見えます。

タイトル / 本文

記事名と記事の中身。画面には下書き連携テストの文章があります。

抜粋 / スラッグ

記事の短い説明とURL用の識別文字列。画面ではテスト用の値が入力されています。

ステータス

画面の値はdraft（下書き）。実際に下書きになった結果は図5で確認します。

カテゴリー / タグ

記事を整理する分類情報。入力文字列から投稿への具体的な対応設定は見えていません。

アイキャッチ関連

右端に見える関連列。見切れており、完全な列名・値・自動設定の成否は確認できません。

確認の限界：複数行があることは確認できますが、入力した理由や各行がどの投稿を作成したかは、この画面だけでは特定できません。

Makeの6モジュールを読む

モジュールは処理の部品です。接続順と名前は実画面、以下の役割は公式資料に基づく一般説明です。



図3 構築したMakeシナリオの実画面（処理部分を抜粋）。数字は画面内のモジュールIDであり、処理順番号ではありません。

1 Watch New Rows

Google Sheetsの新しい行を検出し、行データを取り出す入口。

2 Search Categories

WordPressのカテゴリーを検索する。

3 Iterator

配列（複数項目の集まり）を1項目ずつに分けて次へ渡す。

4 Search Tags

WordPressのタグを検索する。

5 Array aggregator

複数の処理結果を、ひとまとまりの配列にまとめる。

6 Create a Post

受け取った情報を使ってWordPressの投稿を作成する。

具体的な検索条件、Iteratorへ渡す配列、集約する項目、投稿への割当て、認証情報は画面から確認できません。再現用の設定手順としては扱わないでください。

04 / 実行履歴

成功とエラーを、別々に確認する

Makeの履歴とWordPressの結果を合わせて見ることで、実行状況を確認めます。

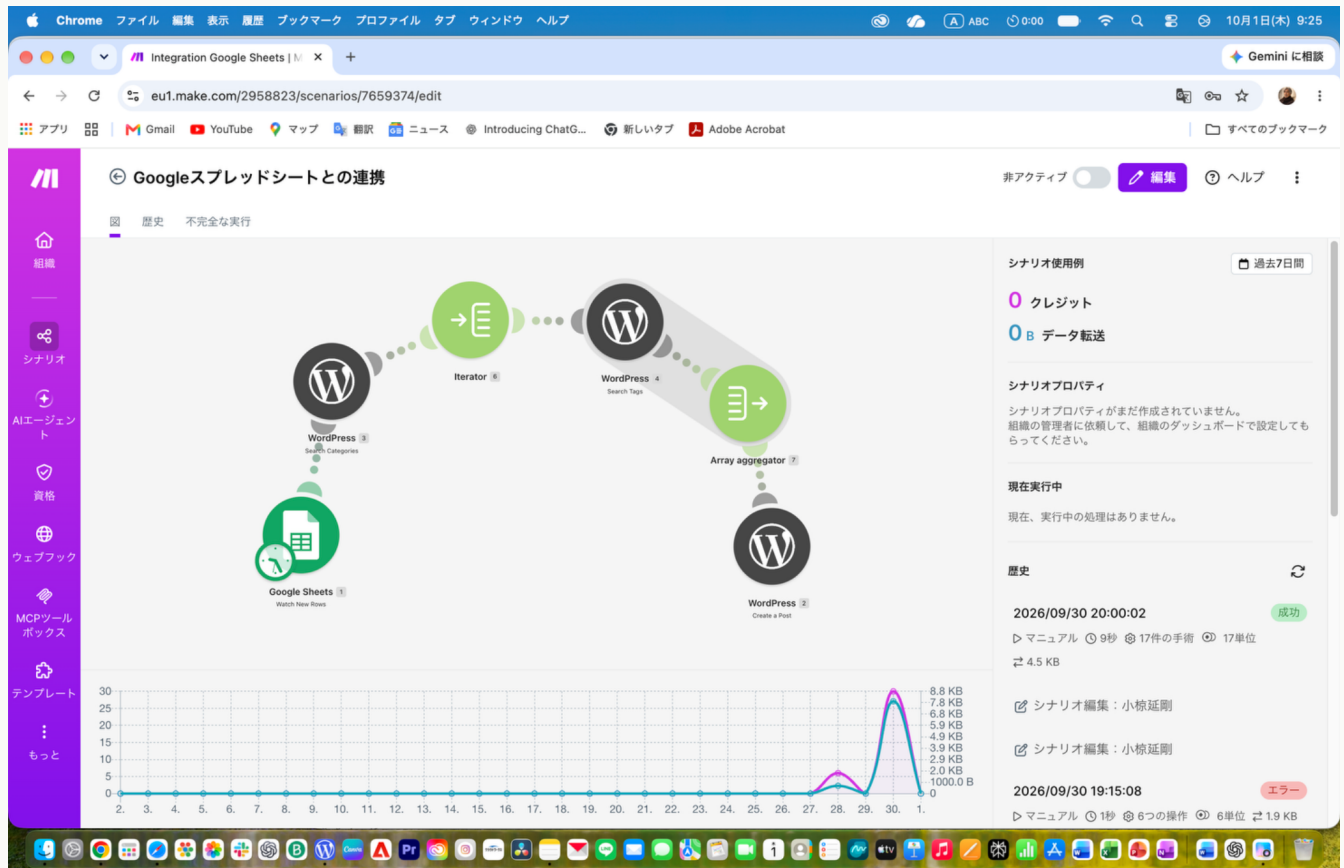


図4 Makeのシナリオと実行履歴。右側に「成功」と「エラー」の両方が表示されています。

実画面で確認できること

2026/09/30 20:00:02の履歴は「成功」、同日19:15:08の履歴は「エラー」。画面上部には「非アクティブ」の表示があります。

この履歴だけでは分からないこと

どのモジュールで何が原因となってエラーが出たのか、途中で投稿が作成されたのか、どの履歴がどの下書きに対応するのかは特定できません。成功表示だけで記事品質や公開準備の完了も判断できません。

05 / 結果

WordPressに下書きが存在する

タイトル・本文・ステータスを、WordPress側の画面で確認します。

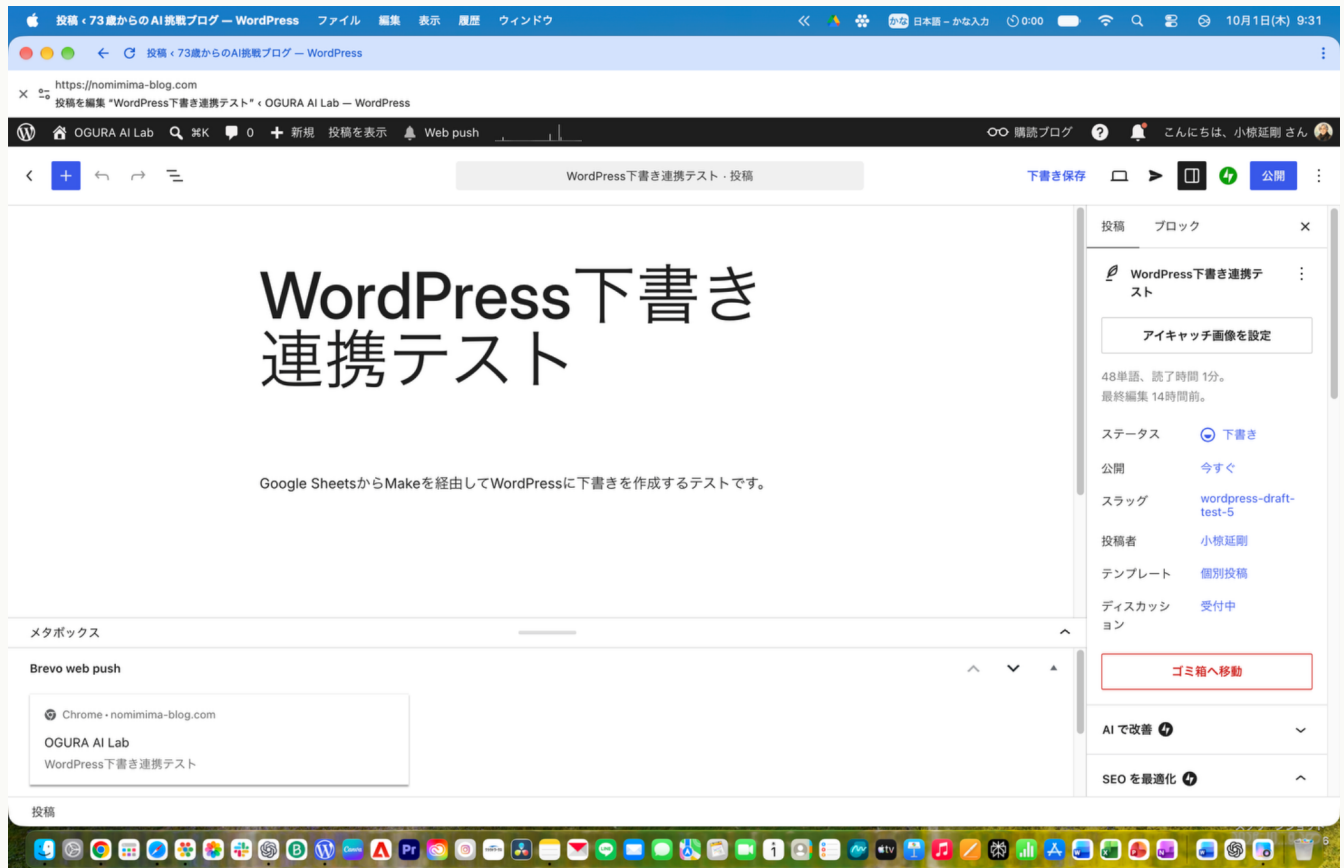


図5 「WordPress下書き連携テスト」の編集画面。右側のステータスは「下書き」、本文にはGoogle SheetsからMake経由で作成するテストと記されています。

今回の到達点

テスト用の記事がWordPressの下書きとして存在することを確認できます。入力、Makeの構成、下書きの結果を一連の実践資料として読むことができます。

下書きができて、確認は続く

アイキャッチは「画像を設定」の表示です。画像の自動設定成功を示す資料ではありません。カテゴリー・タグ・抜粋など、見えていない項目の反映も別途確認が必要です。

06 / 課題と教訓

エラーが出てもすぐ再実行しない

まずWordPress側を確認し、履歴と入力データを照合する手順を取ります。

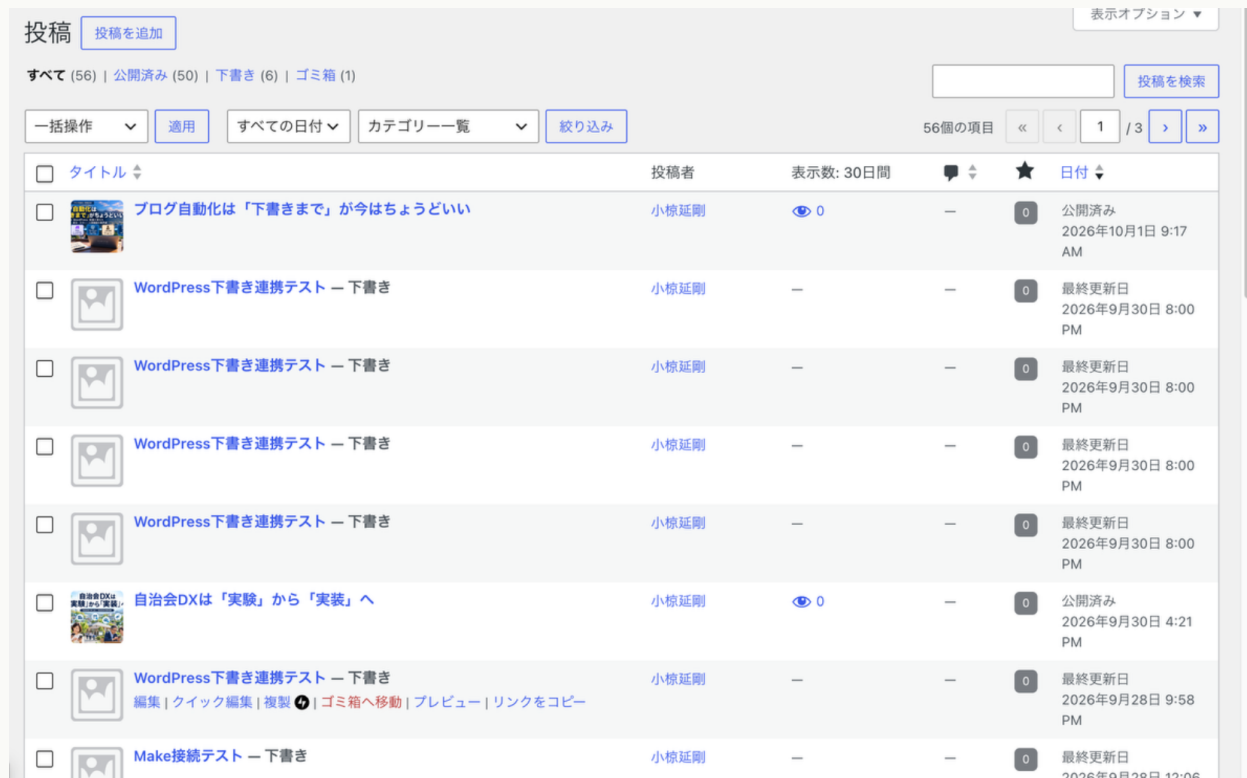


図6 WordPressの投稿一覧（投稿部分を抜粋）。「WordPress下書き連携テスト」が複数行に並び、いずれも「下書き」と表示されています。

事実と原因を分ける

同じタイトルの複数下書きは確認できます。ただし、エラー後の再実行がこれらの重複を生んだと、この画像だけで断定することはできません。

再実行する前の確認手順（推奨）

1. いったん操作を止め、Makeの該当履歴を開く。
2. WordPressの投稿一覧を検索し、下書きの有無を確認する。
3. タイトルだけでなく本文・更新日時・投稿IDも照合する。
4. Sheetsの対象行と実行結果を照合してから、再実行の可否を判断する。

一般的な注意：エラー表示だけから「投稿は存在しない」と決めつけないこと。重複を見つけた場合も、内容を比較してから残す投稿を判断します。

07 / 運用の境界

自動化する範囲、人間が確認する範囲

今回の資料で示された到達点を整理し、未確認の部分は次の検証課題として扱います。

現在の自動化範囲

Google Sheetsのテストデータを入口に、Makeの検索・分解・集約・投稿作成モジュールをつなぎ、WordPress下書きへ届けるテスト。

人間が担う範囲

原稿の事実確認と編集、画像の選定・権利確認、分類・SEO・表示の確認、重複の判断、最終公開。これは本ガイドの運用方針です。

まだ確認できていないこと

定期実行の実際の運用、重複防止の仕組み、処理済み行の管理、画像や各項目の完全な反映、エラー回復の方法。画面に部品があることと、安定運用が実証されたことは区別します。

次の検証に向けて残す記録（推奨）

対象の行、実行日時、Makeの結果、WordPressの投稿ID、確認した内容を対応づけて記録します。1件ずつ結果を確かめれば、どの入力かどの下書きに届いたかを追いやすくなります。

公開は、人間の判断で行う

下書きの生成と記事の完成は別の段階です。内容と表示を確認した人が、公開を決定します。

08 / 公開前と次の一歩

公開前チェックリスト

下書きを開き、各項目を確認してから公開します。未確認の項目があれば下書きに戻して見直します。

☐ 内容

タイトル・本文・抜粋が意図どおり。事実・日付・固有名詞・引用元を確認した。

☐ 読みやすさ

見出し・段落・リンクに不備がなく、テスト文章が残っていない。

☐ 画像

アイキャッチ・本文画像・代替テキストを確認。利用権と出典を確認した。

☐ 分類・SEO

カテゴリー・タグ・スラッグ・SEO項目を確認した。

☐ 重複

同じ記事がほかの下書きや公開済み投稿にないか確認した。

☐ 表示と公開

パソコン・スマートフォンのプレビューと、公開状態・日時を確認した。

途中の結果発表から、第三弾へ

今回、下書き連携の成果と重複の課題が見えました。次は第三弾「AI Weekly自動化」へ。人間確認の境界を保ちながら、次の実践で検証を進めます。

資料・参考

実証資料：ユーザー提供のGoogle Sheets 1枚、Make 2枚、WordPress 2枚（2026年10月1日のスクリーンショット）。一部は読みやすさのため関連部分を抜粋。

一般説明の参考：Make公式資料（2026年10月1日確認）

Google Sheets modules

WordPress

Iterator

Aggregator